



一勝地小だより

第5号

球磨村立
一勝地小学校

文責：永田

学校教育目標

ふるさとを愛し、心豊かで、たくましく、
共に学び合う児童の育成
『思いやりでみんながつながる一勝地小』

すべての人が安心して暮らせる社会に

LGBTQに関する事柄が、連日、新聞やテレビ等で報道されています。私自身も、先月と今月、大学教授や当事者の方の話をきく機会を得ました。専門機関が全国の20〜59歳、10万人を対象に調査したところ、約6%がLGBTQであると回答したとのことですが(10%くらいではないかという別の調査結果もあるようです)。つまり、割合からすると、性に関する違和感や悩みを抱えている人が、自分の身の回りや家族の中にも、何らかの形でいるということです。しかし、テレビやネットでは、それらの人をからかいや嘲笑の対象としていることがあります。親友がそうだったら、あるいは家族がそうだったら、笑いの対象とできるでしょうか。また、LGBTQの約53%がはじめの被害に遭い、39%が不登校に陥り、36%が自傷行為に及んでいるとの調査結果もあります。自分の大切な人がそうだったとしたら、耐えられるでしょうか。

すべての人が安心して暮らせる社会にしていけるためには、「いろんな人がいることをみとめる」ということが大前提だと思います。私自身まだまだ学び続けていかなければならないと思っています。そして、一人一人が大切にされる世の中にしていけるために、正しく知って、正しく行動していきたいと思っています。

願いをかたちに

児童会運営委員会の呼びかけで、7月7日(金)の昼休みに七夕飾りを作りました。縦割り班で楽しく会話しながら、それぞれの願いを短冊に書きました。作った物は児童玄関に飾っていますので、「来校の際にご覧ください。」と、思いや願いを叶えるためには、書いて、いつも見えるようにして努力することが大事だと思っています。

私は、小・中・高と陸上競技(短距離走)をやっていました。高1の4月、高3のときの高校総体全国大会が北海道で開催されることを知り、ぜひ出場したいという思いを強くもちました。その時点で私の実力は、郡市中学生での3位が最高でした。全国大会に出るためには、県大会で6位以内に入って南九州大会に進むこと、さらに、熊本・宮崎・鹿児島・沖縄の6位以内が集まるその南九州大会で6位以内に入ることが条件です。そこで、私は「行くぞ!インターハイ札幌」というスローガンと、そのための自主トレメニューを紙に書き、それを自宅の机の前に貼って毎日取り組みました。身長160cmもなかった私は、大好きな炭酸飲料も断ちました。そして、仲間と共に普段の部活の練習もがんばりました。高2の冬、左足の故障で3か月ほど走れない期間がありましたが、腐らず、上半身の強化に努めました(今は見る影もありませんが、当時は、柔道部の友人にも腕相撲で勝つくらいになりました)。努力すれば願いは叶うものですね。高3のときに個人では200m走で南九州大会に、そして4×100mリレーで仲間と一緒に念願の全国大会に出場することができました(このとき初めて飛行機や地下鉄に乗って興奮しました)。その年には、実業団や大学生も参加する九州選手権大会でも2位という結果を残すことができました。もちろんこの結果は、周囲のたくさんの方々に支えられてのものであることは、言うまでもありません。ちなみに、そのとき、陸上部の顧問として私たちを導いてくださった恩師は、森 英和先生といい、現在の球磨村教育長 佳寛先生のお兄様です。私が今、球磨村に勤務できていることに、何か運命めいたものを感じています。「がんばれば願いは叶う」、いつかこの話を子どもたちにもしたいと思っています。

楽しい夏休みを

7月21日(金)から夏休みに入ります。けがや病気には十分気を付けて、学校ではできないことを経験し、思い出がいっぱい残る夏休みにしてほしいと思います。

おかげさまで1学期は、大きな事故なく終えることができました。保護者の皆様、地域の皆様、本校教育活動へのご理解とご協力に心から感謝申し上げます。



【懐かしの学び舎】
高沢小学校
(高沢小学校閉校記念誌より)